

研修報告

グローバル研修

◆テーマ 「私たちの実践をまとめる力をつける

～発信力のあるソーシャルワーク展開を目指す～

◇講師 保正友子 先生（日本福祉大学）

◇日時 2022年11月6日（日） 13:00～16:00

◇方法 オンライン

◇参加者 18名

◇研修会の概要 ～プログラム～

- 1) 講義：実践の中のもやもやを形にしてみよう！
- 2) ワーク1：「もやもや」を6つの角度から分析してみよう
- 3) ワーク2「問いを解決するために必要なこと」を実現するにはどのような方法が考えられるか
- 4) ワーク3：どうすれば課題が解決できるか
- 5) 体験発表：2021 学会発表支援ゼミナール参加者 → 6) 講師のまとめ

◇アンケート コメント紹介◇ ～一部抜粋～

- 日頃感じているもやもやや疑問をどういう風に分析して問いをたてて研究するかという考え方を教わりました。事前の動画内容を当日に講義でもう一度聴けたので、それがすごくよかったです。
- 今日の研修を通じ、①自己覚知の重要性 これはグループワークの中での気づきです。MSWとしての自分が仕事に感じたこと（ポジティブ・ネガティブ問わず）、これに研究テーマのヒントが隠れています。またこの時の主語が自分（実践に携わるMSW）である方が、研究をより一層深めることに繋がるとわかりました。②研究・発表のメリット 保正先生のお話にもあった通り、研究発表ができるSWが求められているとのことで、これはSWの存在意義にも関わることだと大変印象的に捉えました。

◆研修会を終えて

この研修は、事前課題として、講師が作成した動画を2つ見たうえで、当日はワークを中心に、実践現場からでてくる「問い」について個人・グループで考えを深める内容でした。

「学会発表支援ゼミナール」修了者からの、実践研究として初めて調査を行ったこと、その中での体験を話していただき、受講者目線で学ぶことができました。

講師からは「実践現場は宝の山」という言葉の通り、実践から見つけることのできる「普遍的なもの」はMSWが当事者から得た宝です。これらを自分たちで見える形にする、他者に発信することの重要性を会員同士で学びあいたいと感じました。

文責：実践研究支援委員会 委員長 野田 智子